

## 郷土に目を向け、主体的に学び続ける子ども の育成 6年「よみがえれゲンジボタル！ ホタル銀河をぼく私たちの手で」

愛知県西尾市立室場小学校

たか はし ゆき お

高橋行雄

### 【実践の概要】

子ども達にインパクトのある郷土教材「ゲンジボタル」を取り込んだダイナミックな総合的な学習を構想し、子ども達のやる気を喚起した。「カワナ探索ウォーク」「河川の現地調査」等を実施し、郷土の自然の素晴らしさを体感させた。また、子どもの疑問・問題を掘り下げるためにホタルの専門家と意見交流会をしたり、カワナナの食性実験・ホタルのマイ孵化幼虫の放流をしたりといった体験活動を意欲的に取り入れた。そして、自分が見つけたり、調べたりして分かったことは理科プリントに書かためさせた。さらにそれをもとに発表する場「ホタル学習会」「ホタルガイド」等を実施した。五感を通して郷土とふれ合ったことや自分が見つけた郷土を作文に書き綴ることで、子ども達のホタルへの認識が深まり、郷土に根ざしたものの見方や考え方が育成できた。

### 【論文内容の紹介】

#### 1 主題設定の理由

子ども達が住んでいる郷土に目を向けさせ、その中で子ども自らが課題を見つけ、追究する姿を何度も実現すれば、主体的に学ぶ子ども達の姿が見られるようになって考えた。

#### 2 研究の仮説

地域の自然に目を向けさせる総合的な学習を構想し、その中で、「書く活動」を位置づけた4つの学習課程を設けることで、主体的に学び続ける子どもが育成できるであろう。

#### 3 研究の方法

- (1)郷土に目を向ける総合的な学習の設定
- (2)「書く活動」を位置づけた4つの学習過程の設定

#### 4 授業実践

- (1)学習過程「出会う」段階

カワナ探索ウォークでの発見をB紙にまとめ、発表会を持ったことで今後の追究活動に興味と関心そして、やる気を持たせることができた。

- (2)学習過程「見通す」段階

カワナ生息マップ作りで、8か所のカワナ生息地を確認。川環境の具体的な欠点に子ども達は目を向け始めた。そして、子ども達に「どうしたらカワナ生息河川にホタルを蘇生できるか」という疑問が生じた。

- (3)学習過程「ふくらめる」段階

ゲンジボタルを蘇らすために何をしたらいいか話し合う中で、今後の見通しを持つことができた。科学部顧問、ホタル保存会役員さん、愛知ホタルの会役員さんの話から自分たちにもできる「カワナ飼育」「ホタル飼育」「川環境整備」の3つを考案し、32,553匹の孵化幼虫を放流した。また、自分たちにできないことは、「ホタル学習会」「ホタルガイド」で、広く地域住人や市民に協力をお願いした。

- (4)学習過程「まとめる」段階

これまでの取り組みをまとめの作文に綴ったり、要点をコンピュータに打ち込み後輩に来年のホタル乱舞の夢を託した。

#### 5 研究の成果と今後の課題

- ・子ども達にゲンジボタルへの愛着心が育まれ、ゲンジボタル蘇生には、地域環境の保護が不可欠であることにも子ども達は気づいた。書き綴ることで、自分の活動の道標を自分なりに考える姿を見ることができた。
- ・1～6年までの全校児童が取り組みやすい「ホタルの総合的な学習」の開発に努める。
- ・考えを深め高めるさらなる「書く活動」の開発に努める。